

水曜コラム+

日銀いよ金融教室 第114回：「財別にみた輸出動向と見通し」

2020年2月12日（水）（愛媛新聞E4編集係）

今回は、「経済・物価情勢の展望（1月、日銀公表）」の中で分析しています。「財別にみた輸出動向と見通し」について、取り上げます。

同レポートでは、輸出動向と見通しについて、情報関連、資本財、自動車関連の財ごとに整理しています。

まず、情報関連輸出は、グローバルなITサイクルの好転を背景に、足もと、スマートフォン向けやデータセンター向けを中心に増加基調に転じています。WSTSの世界半導体出荷額は、昨年後半から増加に転じ、今年も幅広い品目で増加する見通しです。これは、クラウドサービス需要の高まりやEコマースの拡大に伴うデータセンター向け投資の持ち直しによるものです。また、スマートフォン関連についても、今後、5G対応機種への投入が順次拡大するなかで、付加価値の高い関連部品の出荷が増加するとみられます。このため、先行きの情報関連輸出は、しっかりとした増加基調を続けると予想しています。

一方、資本財輸出は、半導体製造装置の増加等を除けば、弱めの動きが続いています。これは、中国等における製造業での設備投資の減速等によるものです。とくに、わが国資本財輸出の先行指標である工作機械受注（外需）は、①グローバルな自動車生産の弱さや、②不確実性の高まりに伴うグローバルな設備投資の先送りなどから、依然減少傾向にあります。このため、先行きの資本財輸出も、増加に転じるまでには時間を要するとみられます。ただし、その後、グローバルな不確実性が低下すれば、資本財の貿易量は回復に向かい、資本財輸出も増加基調に復するとしています。

また、自動車関連輸出は、グローバルな自動車販売の不振が続くもとで、海外生産移管の動きもあり、足もと大きめの減少となっています。グローバルな自動車生産台数は、①設備投資減速に伴う法人需要の減少や、②中国・インド等における金融環境の引き締め、③欧州・中国の環境規制の厳格化を背景に、一昨年以降、減少しています。グローバルな自動車販売不振のもとで、わが国の完成車輸出は、昨年央頃まで増加基調を続けてきたこともあり、足もと、その反動から減少幅が大きくなっています。さらに、自然災害による供給制約等から、生産台数は、国内向けも減少しています。先行きの自動車関連輸出は、グローバルな販売不振が続くとみられ、当面弱めの動きが続く可能性が高いとしています。もっとも、その後は、グローバルな自動車販売が、環境規制の厳格化に伴う下押し圧力が和らぐなか、設備投資の回復に伴う法人需要の持ち直しや新興国の政策対応が下支えとなり緩やかに回復

していくと見込まれています。このため、自動車関連輸出も次第に回復に向かうと予想しています。

この間、県内の動きに目を転じますと、欧州、中国向け自動車関連輸出の伸び悩み等の海外経済の影響を受け、一部電気機械やプラスチック製品等の生産面で幾分弱めの動きがみられています。このように、県内の生産活動でも、少なからず海外経済の影響を受けています。今後の動向に注視します。（日本銀行松山支店長・堂野敦司氏）